

トルクメン通信 第2号

2015年10月17日作成

こんにちは。上原です。トルクメン通信第2号です。

赴任から1か月が過ぎ、大分こちらの生活にも慣れてきました。この間、体調を崩したり、水漏れが発生したり、水道管が壊れたり、給与の支払いが遅れしばらく儉約生活をしたり・・・などいろいろなトラブル続きの日々を過ごしていましたが、今は正常に戻りつつあります。正直、何度も「日本に帰ってやる！」と思いましたが、一方「これも海外の生活らしいなあ」なんてちょっと楽しんだりもしていました笑。ただ、「日本語教えたくない」と思ったことは一度もないです。うれしいことに、学生が「先生大丈夫ですか？くすりあげます！（ちなみにこの薬の成分が強すぎて、さらに体調が悪化しました）」や「お金がありますか？今日は私がお飯を買ってあげます！（学生にこんなこと言われる俺って一体…）」、「もし先生がつまらなかつたら、先生の家に行きます！（いや、風邪うつっちゃうから大丈夫だって!）」といろいろ声をかけてくれたので、すごく支えられました。

さて、日本ではシルバーウィークに体育の日の連休と休日が多いこの時季ですが、トルクメニスタンも祭日や祝日が重なる時季です。まず、「グルバンバイラム」というイスラム教の祭日があります。毎年時期は異なり、今年は9月24日から26日まででした。この日は屠殺した羊の肉を食べます。次に10月6日の震災追悼記念日（こういう名前なのかわかりませんが、勝手に命名しました）で、60年ほど前にトルクメニスタンで起きた大地震で亡くなった犠牲者を追悼するための日です。そして10月27日の「独立記念日」。トルクメニスタンで一番重要な祝日です。この独立記念日に開催されるイベントにアザディ大学の学生も参加します。そのイベントの練習のため、授業が度々休講になります。事前に休講になる日を知らせてくれればいいのですが、「はい、今日休講だからよろしく！」と急に言われるので、やろうとしていたことができなかつたりします（話は脱線しますが、「突然何かを言われる」というのは当たり前で、今は慣れましたが最初はすごく戸惑いました）。でも、どんなイベントなのか興味津々です。イベントの様子はまた次号以降で紹介できればと思います。

前置きが長くなりましたが、今回はアザディ名称世界言語大学の様子と、私が今受け持っている3年生のクラスの様子を紹介したいと思います。

★ アザディ名称世界言語大学の様子

前号でも少しご紹介しましたが、今回はもう少し詳しい大学の姿をお伝えしたいと思います。

大学ですが、とにかく建物が古いです。いろいろなところにヒビが入っていたり、穴が開いていたり…。ですが、授業をする分には問題ないので先生や学生は普通に使っています。教室には、黒板（ホワイトボード）、机、イスのみと至ってシンプル。学生は卒業までの5年間、その教室を使い続けるようなので、マグカップなど学生の私物もちらほらと見受けられます。大学の構内には寮が併設されており、地方から通っている学生は寮で生活しながら大学に通っています。こちらに来て驚いたのが、コピー用紙や文房具などの備品は学生が用意するという点です。日本だと大学が用意してくれると思うのですが、こちらでは学生全員が奨学金をもらっているため、その奨学金から備品の費用を捻出することとなっています。なので、たとえばコピー用紙がなくなったら、「紙なくなったから次までに買ってきてねー」と学生に頼んでおく必要があります。



「タフヤ (tahya)」
(左が男子用・右が女子用)

トルクメニスタンの大学には制服があります。男子学生は白シャツにスーツ、ネクタイを着用し、ひげや長髪は禁止です。女子学生は「コイネク (koynek)」という赤いトルクメンドレスに三つ編みという服装です。そして男子も女子も「タフヤ (tahya)」という帽子の着用が義務づけられています。結婚した女性の場合、帽子ではなく頭にスカーフを巻いています。学生のうちに結婚するという例は多く、中には子どもを産み育てながら大学に通っている学生もいます。授業中は帽子を脱いで

いることが多いのですが、学部長がたまにフラッと制服のチェックに来るので、そのときだけは全員起立、帽子をしっかりとかぶり、学部長の逆鱗に触れないようにしています。学部長は普段はとてもやさしい方なのですが、学生に厳しく怒鳴りつけている場面に度々遭遇します。ちなみに私はポロシャツにチノパンという比較のカジュアルな格好で授業をしています。外国人講師は基本的にどのような格好でも良く、私のような格好をしている先生方も多いのですが、トルクメンの先生方も基本的にスーツ／トルクメンドレスなので、かなり浮いています笑。

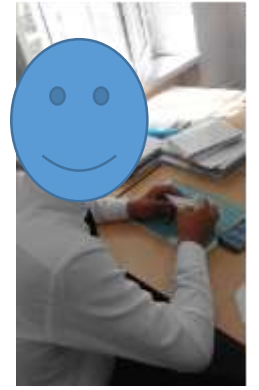
また、トルクメンの学生にはいろいろなルールがあるようです。運転をしてはいけない、海外旅行をしてはいけない、卒業後2年間、男子は兵役、女子は働かないと学位がもらえない、午後や休日にイベントがある場合は必ず参加しなければならない、風邪をひいても基本的に学校にいけない、などです。月一回「健康の道」という山道を歩くイベントがあるようなのですが、日曜の朝5時くらいから始まるので大変ですね……。

★ 3年生の様子

いろいろルールがあつて大変そうな大学生活ですが、日本語の授業の時はみんな元気です。頑張つて日本語を話そうとしてくれるのはうれしいのですが、何せ一斉に話しかけられるので、対応が大変です。聖徳太子のように10人の話を一度に聞ければいいのですが、そんな器用なことはできません笑。一方、授業に遅刻してきたり、授業中に携帯をいじったりしている生徒もいます。立場上、一応注意はしますが、気持ちは分かってはくはないです。だっていつ使うかわからない日本語を勉強しているんですから笑。でも、そんな生徒も振り向かせられるような授業をしようと日々奮闘しています。

中でもにぎやかな、というか、うるさいのが3年生のクラス。当初は学級崩壊状態でした。女子は比較的真面目なのですが、男子はやる気がなく、遅刻する、携帯でゲームする、漢字が多いプリントには取り組まない…。もちろん日本語はあまり身につけていません。しかも女子と男子でケンカをし始める始末…。さて、どうしたものかと考えていたのですが、よくよく授業中の様子を観察してみると、男子のいいところがだんだんと見えてきました。例えば、漢字を丁寧に書いたり、折り紙を上手に折ったり、動詞の変換は誰よりも正確だったり、自由作文で面白いことを書いていたり。また、作文の授業で「私の家族」をテーマに作文を書いたときも、正直、私は「ありきたりなテーマで面白くないなあ、まあでも日本語の練習にもなるし、みんなの家族がどんな人か知りたいからいいか」とあまり乗り気ではなかったのですが、いざ作文を書かせてみると、男子が(たぶん)「こんなことを言いたいんだけど、なんて書けばいいんだ?!」とトルクメン語で女子と話していたり、私が作文を見て「面白いですね!ちなみにこれはどういうこと?」などと質問やコメントすると一生懸命説明したりうれしそうな顔を見せたりしてくれました。このように、一見男子はやる気がなさそうに見えますが、実際はそんなことはなく、むしろ日本語で表現することに対しては非常に意欲的である様子が見えてきました。

そこで、授業では一言でもいいので全員が自分の思いや考えていることを言える時間を取り入れること、そこでは日本語の間違いに目を向けずその言葉をしっかりと受け止めて言葉を返す、つまり「ちゃんとやりとりをする」ことをより意識するようにしました。「私の日本語がわかってもらえた」という体験を積み重ねていき、日本語学習に対する意欲を高めるためです。また、学生の得意なことを把握し、学生それぞれが活躍できる場面を増やすようにしています。例えば、漢字が得意な学生だったら見本の漢字を書いてもらう、動詞の変換が正確な学生は最初に指名して変換してもらう、折り紙の得意な学生は私の代わりに説明してもらう、1年生に折り紙を教えるために折り方をトルクメン語に翻訳してもらう、などです。本当は「語彙」の授業なので、教える内容もすべて決まっていますが、彼らの興味や関心に合わせて適宜変更しています。結果、ほぼカリキュラム通りになっていません！



こんな感じで授業を進めていくうちに、クラスの雰囲気は少しずつ変わってきました。特に男子は以前より日本語についての質問や「今何をすればいいんだ」とような確認のやりとりが増え（ちゃんと指示出してるんですが笑）、授業に関わろうという様子が見えてきました。また、女子の男子に対する評価も変わりつつあり、「日本語はできないけど折り紙は上手」「漢字はきれいに書きます」のように「日本語ができるかできないか」という軸にとらわれず、多面的にクラスメイトの特長を把握できるようになってきました。ことばでやり取りをしながら、相手のいろんな部分を発見しその良さに気付くクラス創りを目指してきた私にとっては、とてもうれしい変化です。もちろん課題はいろいろあるのですが、彼らと一緒に私も考えたり、話したり、楽しんだり、時には悩んだり、怒ったりしながらクラスを作っていきたい



と思います。ちなみに上の写真にある兜ですが、3年生の学生が折りました。丁寧で本当に上手です。

今回は、大学の様子と3年生の様子を紹介しました。やっぱり学生のことになると長くなってしまいますね。そして現在、「トルクメニスタンで日本語を学んでいる／学んでいた学生は、大学での日本語学習をどのように意味づけているのか」をテーマにインタビューをしています。そのインタビューの内容や日本語学科の先生方・学生の声もトルクメン通信でご紹介したいと思います。トルクメニスタンの学生がどんなことを考えて日本語を勉強しているかなんてなかなか知ることができないので、貴重なインタビューになると思います。また、最近、日本語教育がアザディ大学以外の大学や中等教育機関でも行われることが政府により決定されました。これから日本語教育の分野で様々な変化がありそうなトルクメニスタン。その様子を少しでもこのトルクメン通信でお伝えできればと思います。第3号もお楽しみに！

アザディ名称世界言語大学 上原龍彦

(ご質問・ご感想などは azadyuehara★gmail.com へ。 ★を@に変えてください)